

市民福祉講座 5

「未来を担う子どもたちに、私たちができること」

～「食のセーフティーネットが
子どもの貧困を救う」～

2015 年 11 月 28 日 下関市社会福祉センター

講師 原 田 昌 樹
(NPO 法人 フードバンク北九州
ライフアゲイン代表)



講師、原田昌樹氏は牧師であり、平成 13 年 4 月、任意団体「ハッピーアワークラブ」を設立して子育て支援事業に取り組み、さらに平成 19 年 4 月には任意団体「ミッションロープ」を設立し、自立支援事業の活動も始められました。

そうした活動の中で、食品が大量に廃棄されている現状に出合い、まだ使える食品を廃棄する社会構造は、まだ役に立つ弱者を切り捨てる社会を映し出しているように思われたのです。

平成 25 年 3 月、北九州市八幡区に「コストコ北九州」がオープンし、ここから食品の提供が受けられるようになったのをきっかけに、任意団体「フードバンク北九州ライフアゲイン」を設立。翌平成 26 年 4 月に NPO 法人設立総会を開催し、同 10 月に NPO 法人認定取得。

“ライフアゲイン”は、『息を吹き返す』という意味です。

日本では、17 歳以下の子どもの相対的貧困率は約 16%（2009 年時点）で、320 万人以上が貧困状態にあります。離婚率の上昇により、ひとり親家庭が増加し、ひとり親世帯の子どもに限ると貧困率は 5 割を超え、先進国で最悪の状態なのです。

貧困と孤立によって、食べられない、働けない、教育を受けられない人々をひとりも生み出さない循環型社会を、愛と分かち合いを基盤に構築することが、事業のミッション（使命・目的）です。

- **フードバンクとは…賞味期限内で十分食べられるのにも関わらず、箱が壊れたり、印字が薄くなったりして、販売できない食品を企業や農家から寄贈してもらい、必要としている施設や団体などに無償で提供する活動です。**

この社会にあふれる『もったいない』を『ありがとう』に変える取り組みを通し、困窮状態にある方の今日を支えると共に、この活動を通して新しい社会システムを構築し、企業の社会貢献(CSR)を手助けすることを目指しています。

(註) 日本の食品ロス 500～800 万トン (年間コメ収穫量に匹敵) (農水省 環境省資料から)
(食品ロスの内訳) 家庭 200～400 万トン・企業 300～400 万トン (平成 26 年)

- **具体的な取り組み (平成 26 年度)**

- ① **地産地消の食品ロス削減……***福岡県リサイクル総合研究事業化センターのサポート

- *北九州市立大学との連携による食品ロス削減研究会発足、削減学生プロジェクト始動開始
- *食品提供企業 10 社と個人 14 人 (食品取扱量 26 トン CO₂削減量 約 36 トン)
- *食品の支援先 (北九州地区…福祉施設 60 か所・個人 22 か所、 福岡地区…福祉施設 15 か所・個人 1 か所)

- ② **子どもの貧困を防止する食のセーフティーネット構築**

- *本人の同意のもとに困窮世帯の個人情報を入力(行政機関、社会福祉協議会、支援団体、学校、医療関係さん等から)し、食糧支援をする
- *食の専門家との連携
- *孤食から団らん食へ

- ③ **市民参加のフードバンク事業 (私たち大人が今できること) ……**

- *日々の消費生活を見直す (・すぐ食べるものは賞味期限の迫っているものから購入する ・買いためし過ぎない・食べ残さない ・食べ物に対する感謝の気持ちを持つ)
- *外食を残さず食べよう
- *フードドライブで食品提供 (家庭や職場であまった食料品を持ち寄り、食糧の確保が困難な団体や個人を支援する)
- *備蓄食品を見直そう (クローズからオープンへ)
- *まわりの人々に関心を寄せる *寄付や会費で運営支援 *ボランティアに参加

受講者の皆さんのアンケートから、多くの賛同の声が聞かれ、会員からもすぐ出来る事は「フードドライブ」だということで、さっそく集まったものを抱樸館へ持っていきました。

12 月 5 日

